

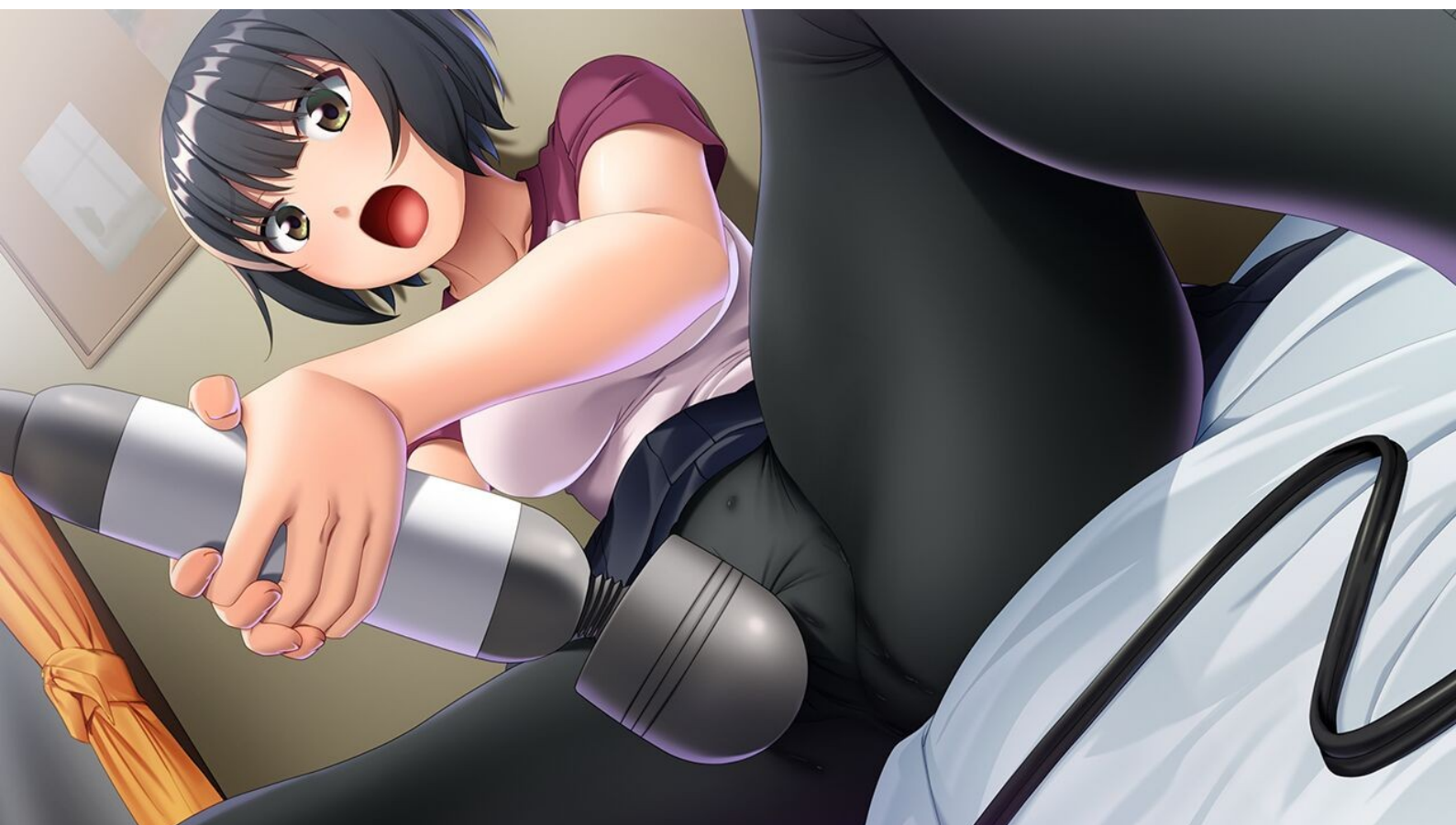










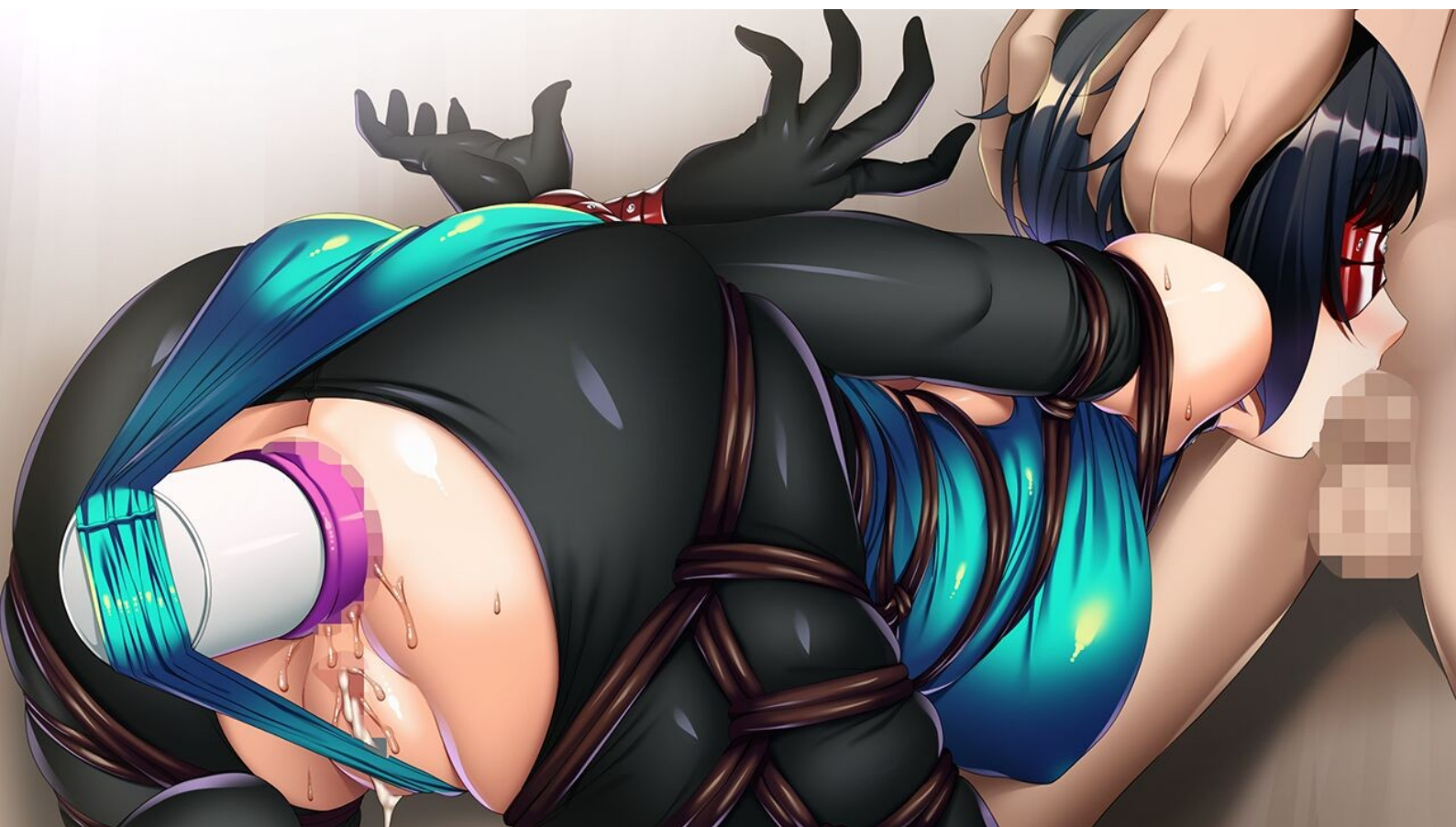


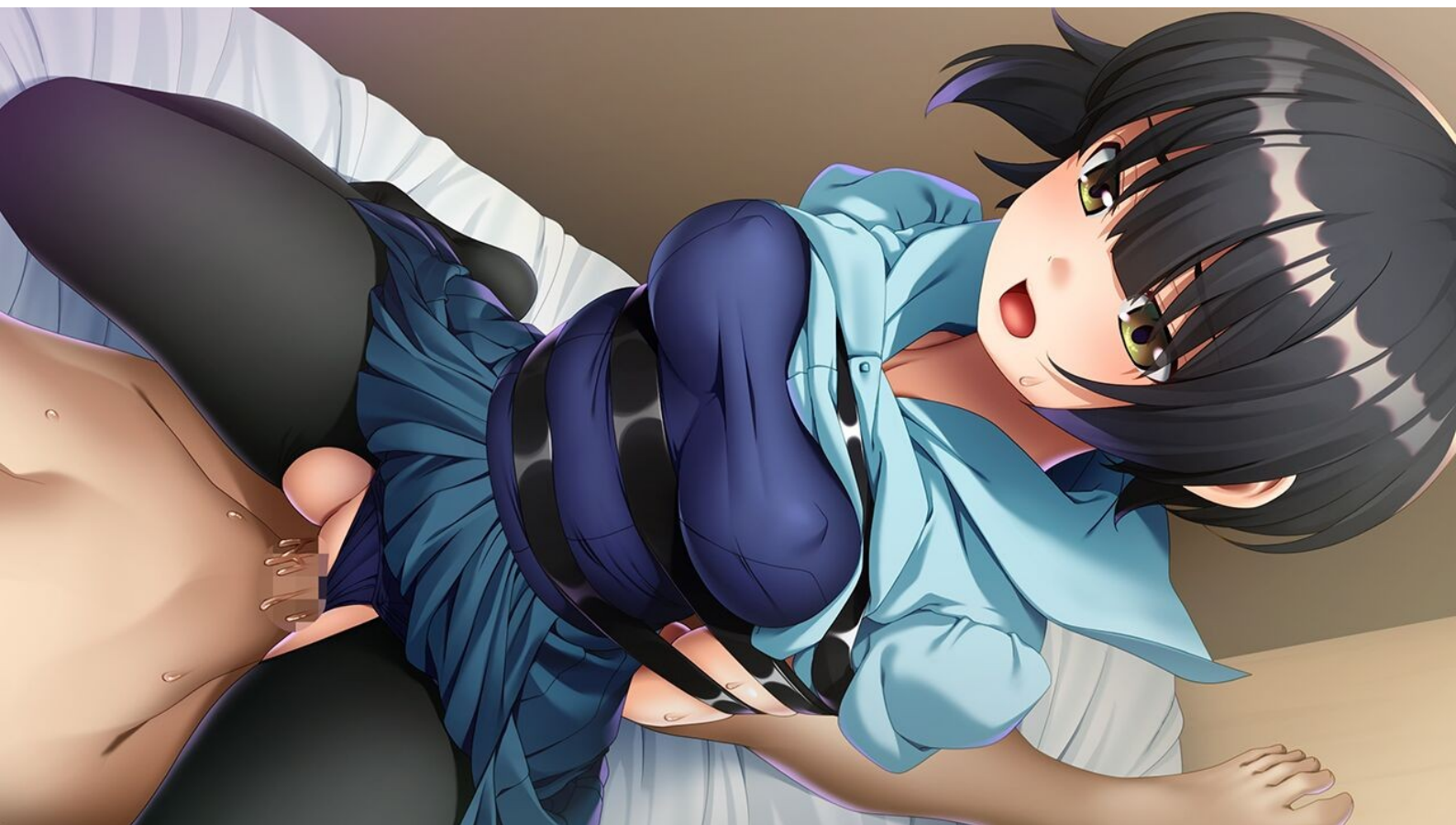


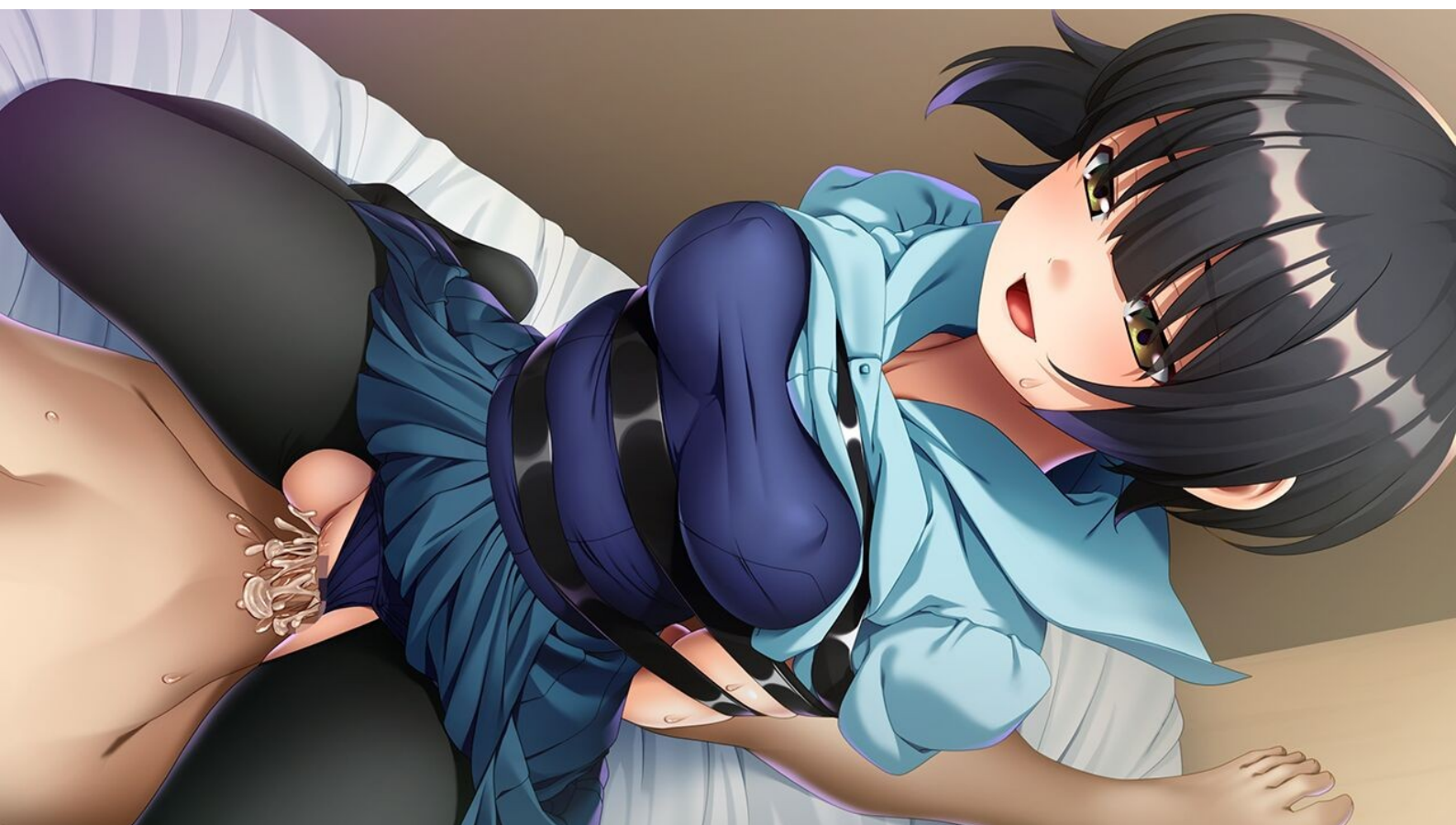




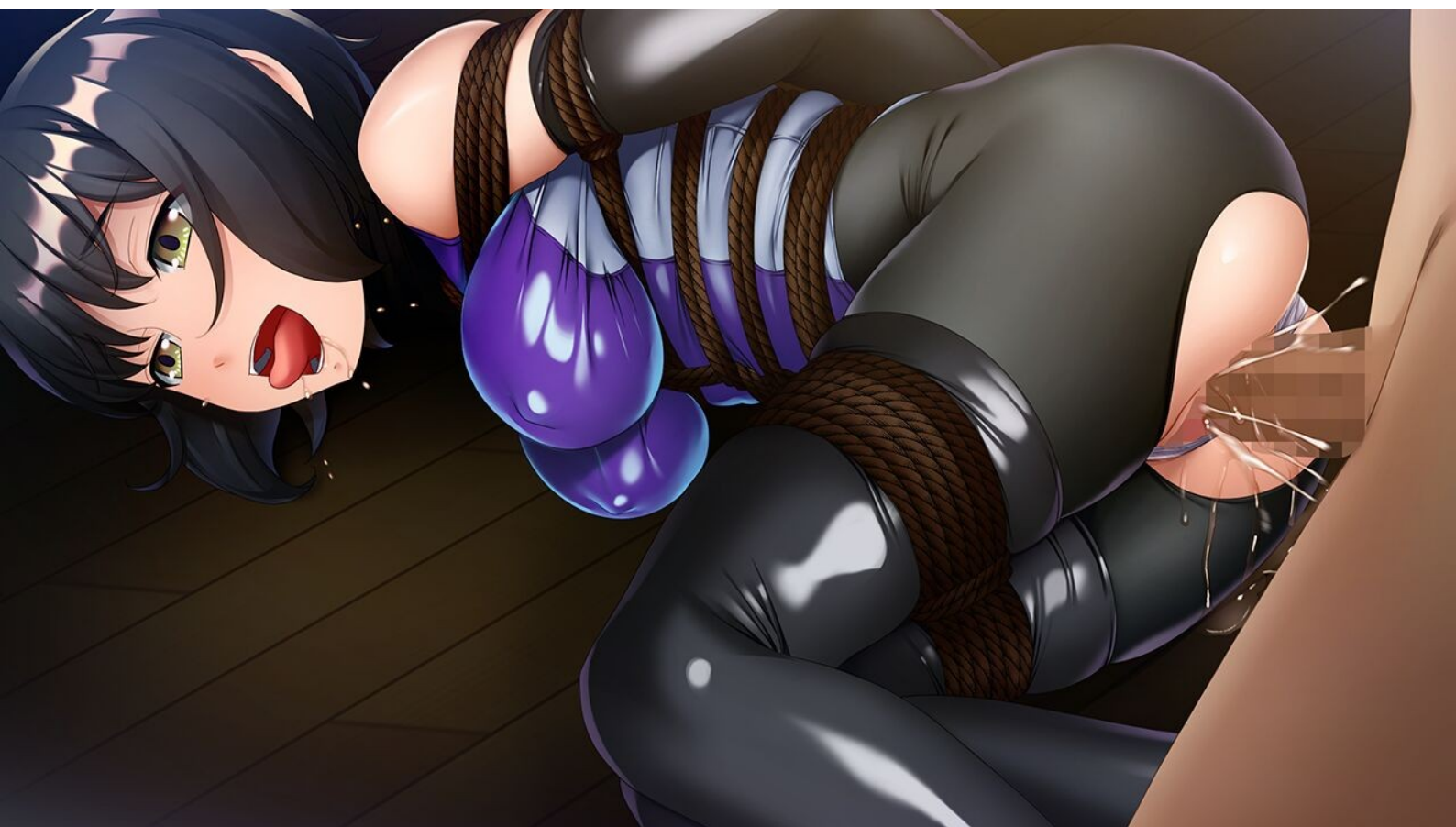














航ちゃん……
このまんまだと
苦しいんだけど……
さっさとイかせてよ……
んっ、はあっ……

あ、あの、航ちゃん……
航……ちゃ……
あっ、あっ……ねえ、早く……
んっ、動かして……っ、は、っ……

んっ、んっ

んっ、んっ

んっ、んっ

んっ、んっ

その後、シャワーも浴びずまだふわふわした心地の
恵美とともに自宅近くの駅前の街を散策して
とりあえずカフェに入ることとなった

あつ、兎多先輩……！
こんにちはー！
あ、すごい偶然ですねっ

恵美の、学園陸上部の
後輩たちに出くわし
一緒にお茶する流れになった

ごめんなさい
デートの邪魔じゃ
ないですかー？

う、ううん
大丈夫よ……

そうそう、どうせなら
にぎやかな方がいいしね

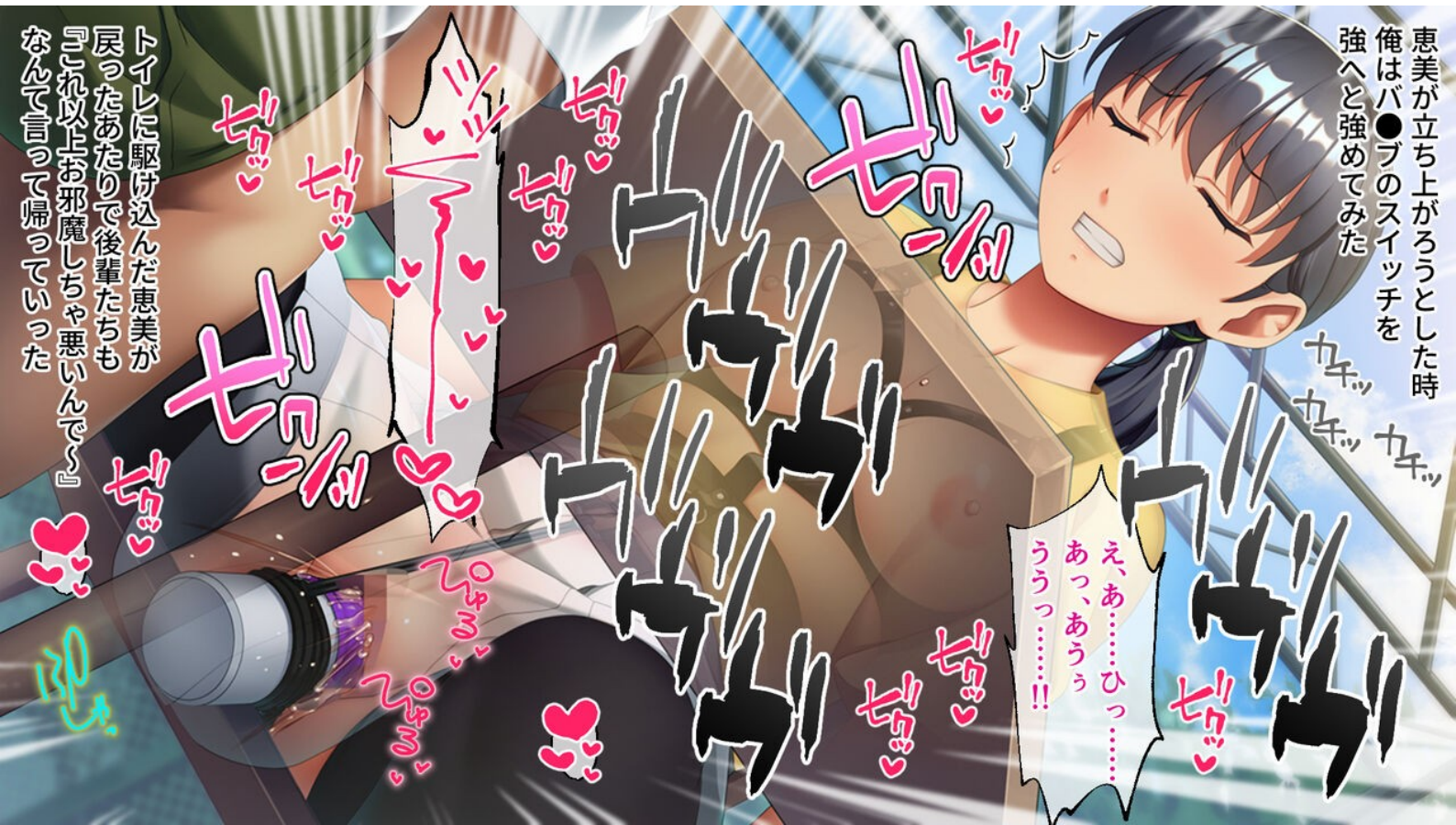


恵美が立ち上がろうとした時
俺はバ●ブのスイッチを
強へと強めてみた

カチッ
カチッ
カチッ

え、あ……ひっ……
あっ、あうう
ううっ……!!

トイレに駆け込んだ恵美が
戻ったあたりで後輩たちも
『これ以上お邪魔しちゃ悪いんで』
なんて言っって帰っていった



拒否しなかった恵美の手を引き
俺たちは駅の男子トイレに入った

う、うぐ、うぐっ……
やめへ……
やらあ、これえ……

航、ちやはあ……
あつ、あつ……
むぐ、ふう、うっ……
やらああ……こんな……
あ、あうう……！

あゝ♡

おぎ♡

ん♡

ん♡

そりや嫌だよな
男子便所の便座の上でぶち込まれて
全裸で変態女コスプレして
よがりまくってちゃあなあ……



ううっ、くっ、はあ、はっ
はあっ、ん、ああっ……!!

くう、あっ
はっ、あっ、あんっ
はあ、はあ……

うううっ、うーっ
ぐうううっ……!!!



んああつ、あつ、あう、ああつ！
あ、あーっ！
くううう、うう、あつ、あつ
くうううっ……！！

はあ、ふう、はっ、ううっ！
お尻っ、くっ、お尻っ
上げてっ、あうう！



あ、はあ、はあ
あつ、あつ、あはあ！
あああつ、くーっ！！

ひゅん♡♡

ひゅん♡♡

ひゅん♡♡

イぐ、うつ、うつ！
もつ、はあ、はあ
イぐうつ！！

んはああ、あつ、うあつ
ああああああーっ！！

あ♡♡♡

あ♡♡♡

あ♡♡♡

だ！だ！だ！
だ！だ！だ！
だ！だ！だ！

んおおつ、イぐ、うーっ！！
イけつ、イけええ、イぐうつ
んほおおおおおおんっ……！！

その日以降は二人だけの逢瀬
密室での秘密のプレイを愉しんでいる

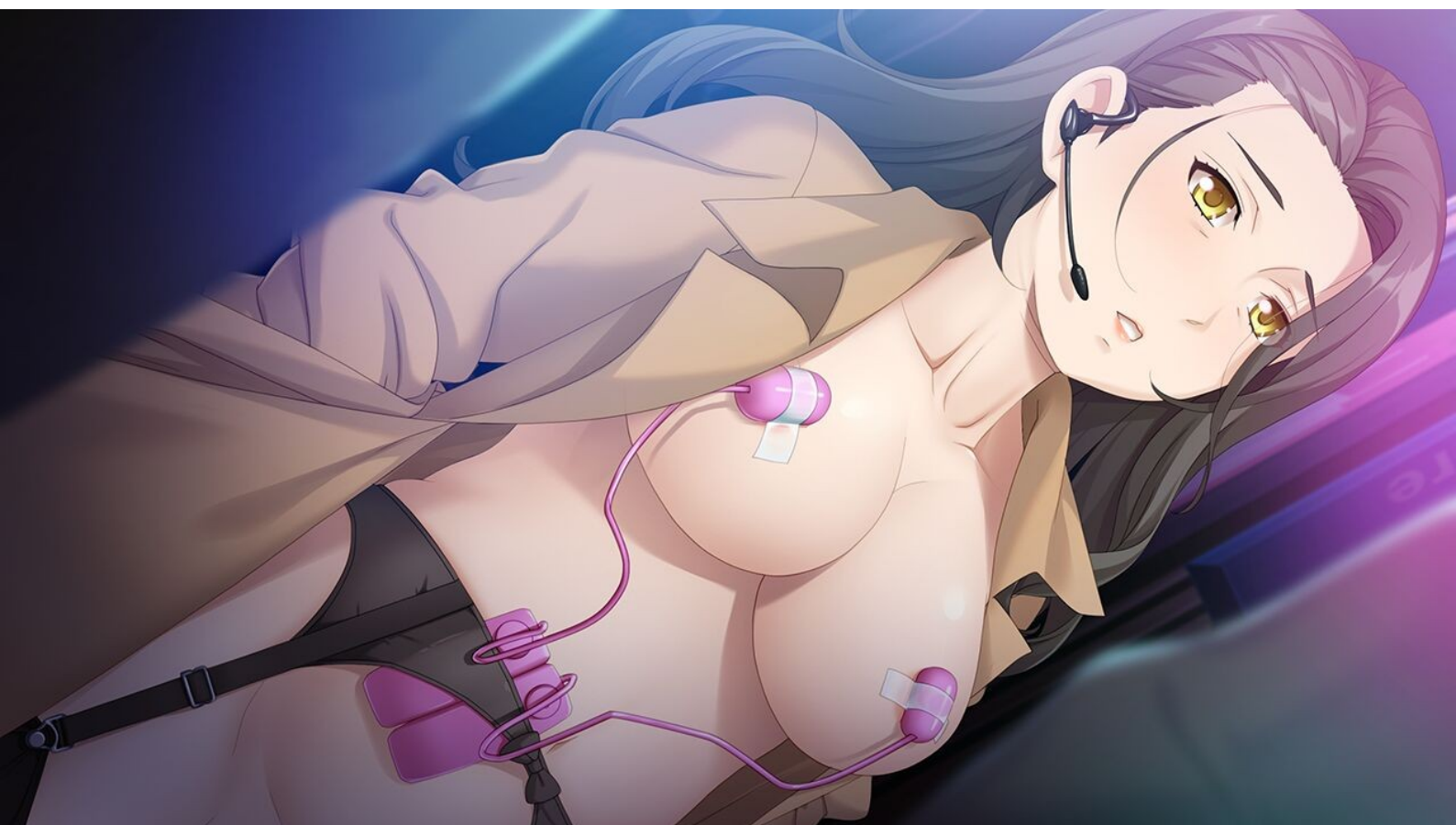


























きし...

はぐ、ふぐっ、んぐむっ
はあ、ふはっ、パパあああ
やはあ、苦ひっ、ふぐう

きし



……パパあ？

動くな、命令だ
じっとしていろ

ビュッ
ッッッ

パパ

次はドアを使って、
吊るし上げてやろう。



ドザッ

やあらあ、あそこお、
んんっ、恥ずかしひ！

あそこ……
切られてへ





んひゃっ!

やあ、らあ……

さあ、飲むんだ

チューブをストロー代わりに、
自分のオシッコを全部飲むんだ

え、あつ、オシッコ……？
んぐっ、え、えっ、オシッコ
飲む……あ、あつ、んっ……























































































ОНИ
ДО СИХ
ПОР
СОДЕР-
ЖАТ ЕЁ
ЧУВСТВА
И ВОЛЮ.

ЧТОБЫ
ОСТАНОВИТЬ
ЕЁ, МНЕ
ПРИШЛОСЬ
РАЗОРВАТЬ
ЕЁ НА КУСКИ
И ПОМЕС-
ТИТЬ
В СПЕЦИ-
АЛЬНУЮ
КАПСУЛУ.

БЫЛ
НЕПОБЕДИМ.
Я МОГЛА
ПОРУБИТЬ ЕЁ
НА МЕЛКИЕ
КУСОЧКИ, И ОНА
МОГЛА РЕГЕНЕ-
РИРОВАТЬ, ЕСЛИ
Я ОСТАВЛЯЛА
ХОТЬ ОДИН.

В ПАРАЛ-
ЛЕЛЬНОМ
МИРЕ
МОНСТР
НОНО-
МИМЫ...

АХ!

АХ!

НХ!

ЧТО...
У МЕНЯ
В ЖИВО-
ТЕ?!

ТЫСЯЧИ
ЛЕТ ЧУВСТ-
ВОВАТЬ
ТО, КАК
РАЗРЫ-
ВАЕТСЯ
ТВОЁ
ТЕЛО...

ИНТЕ-
РЕСНО,
МОЖЕТ
ОНА УЖЕ
СЛОМА-
ЛАСЬ?

ГХА!

НО,
КАК ВИДИШЬ,
ЭТОТ ТИП
БОЛИ ПРЕВРА-
ЩАЕТСЯ В УДО-
ВОЛЬСТВИЕ.

ЧТО Ж...
МОЖЕТ
ТЕБЯ ЖДЁТ
ТА ЖЕ
УЧАСТЬ?
Я ЗНАЮ,
КАК МНЕ
ПОВЕСЕ-
ЛИТЬСЯ
С ТОБОЙ
...



НХО

СНАРУЖИ
ЭТОТ КОСТЮМ
ТАКОЙ ТЕСНЫЙ,
И... ВОЗ-
МОЖНО, ИЗ-ЗА
ДАВЛЕНИЯ
МОИХ РАСТУ-
ЩИХ ЯИЦ ТЫ
ЧУВСТВУЕШЬ
СЕБЯ КОШ-
МАРНО?

ЯИЦ?

?!



ФУФУФУ...
Я УЖЕ
ЦЕЛУЮ
МИНУТУ ИХ
ВЫПУСКАЮ.
И ВСЁ ЕЩЁ
НЕ МОГУ
ПРЕКРА-
ТИТЬ...

ОХ



СТО
МИЛЛИОНОВ
МОИХ ЯИЦ
ПЬЮТ ТВОЮ
ПОХОТЛИВУЮ
ЭНЕРГИЮ
И РАСТУТ
В ТВОЁМ
ТЕЛЕ...

Н
Х
А

АХ



КХ

ハハ

ЖИДКАЯ
ЗАТЫЧКА,
ОТ КОТО-
РОй ТЫ
НИКАК
НЕ СМО-
ЖЕШЬ
ИЗБА-
ВИТЬСЯ.

!!

ОХ,
ТЫ ЗА-
МЕТИ-
ЛА?

НЕТ...
ПРОШУ!
ВЫТАЩИ!

Я ЗАПЕ-
ЧАТАЛА ТВОИ
ДЫРКИ ЛИПКОЙ
ЖИДКОСТЬЮ,
ТАК ЧТО ЯИЦА
НЕ ВЫТЕКУТ.





不意に大きな電子音が響き、
僕たちは繋がったまま硬直する。



射精の瞬間、膣内からペニスを引き抜く。
みちるさんの火照った尻肉に
どろどろの精液を浴びせていく。

「んあ……あつは、あああ……
あつは……ああつ！」

セーブルッ

セーブルッ

びちゃ

びちゃ

セーブルッ!

セーブルッ

セーブルッ



「あつ、あ、んっは、は、んあ……っぐ」

「そんなによだれを垂らして……みつともないな。
まるで犬……いや、これは馬だったっけ？」

「はがつ！ あつ、は、むあつ、あああ……っ！」

グイッ

ぎゅ

ぐるん

ああ……

あ……



「……みちるさん」

一通り欲望を吐き出したところで僕は我に返った。

目の前には精液で溺れ

白目を剥きかけているみちるさんが……。

「うわあああつ、みちるさん！」

んっ

「……お待たせしました。
『ドキッ☆変態熟女の拡張生配信』
はつじまるよー!」

「今回はこのドスケベ熟女……
『ミセスM』の性器を皆さんと一緒に
拡張・開発していききたいと思います」



「ふはっ！ おっ、おぐ……
うっ、んふうっ」

「ああっ、あそこ、広がって……
いっ、あっ、はあああっ！」

ざ
ず
ず
ず
ず

ん
あ
っ

肉びらが柔軟に伸びて
パイアの周囲に張り付く。



——ゴ—ヤ。

「ゴ—ヤ、入ります—す！」

「ひっひっきぎ……
ふあああつん！」



——ビール瓶。

「中瓶ビール二丁〜」

「ひっ、冷た……
なっ、なに、やつ、
ああ……っ！」



——ウィンナー。

「ウインナー、入りまーす！」

あああああ

7/17/09

7/7/11

「あつ、は、あああ……つくつく」

「そ、そんなにいいかい」

——アイスクャンディー。

「アイスクャンディー、
入りまーす！」

にゅる にゅる

ああん

「あつ、ああつ、そんな……
はつ、あつ、あああ……」





「うっくふあ……
ああっ、映さないで……っ」

「そうじゃないだろう？
ほら、お客さんに向けて
言われた通り挨拶して」

「うっくふううう……っ」

じゅん

エロエロ！

げっ

画面に乱れ飛ぶコメントの嵐。
様々な言葉の弾幕が
モニターを埋め尽くしていた。

回元を丸ごと覆うような
大きなマスク。
それをみちるさんの顔に
装着していく。

マスクの口部分は
開口器になっており、
彼女の口が閉じないように
強制的に広げさせる。

「おぐっ、ほ、おうっ、
ん……おっ」

「いぐぞ……」

「こぼさずに飲むんだぞ」

「うぐっ、ふ……」

「んっ、むおっ、おうふ」



「虎太郎ちゃ……んっんっんっ！」

あれから年月が経った今も
みちるさんの美貌は
僕の心を捕えて離さない。

初めて見た時から今まで、
僕はずっと彼女の虜だ。

「っくっく……っくっく
んっんはっは、ああ」

「クリトリス……っ、潰れてっ」

んっん

ぎゅっ

ぎゅっ

んっん

んっん

……そして最後の時まで、
僕は彼女のご主人様でありたい。

「ありがとう」

感謝の言葉を口にしながら
彼女は再び柔らかく笑ってみせる。



んっ…

合同授業。

隣に座る冴依は制服姿だが
その下はノーブラにノーパン。

しかも胸やアソコを縄で縛って
二本のバイブまで挿入している
エロ調教状態。

『冴依、大丈夫？』

小声で訊いてみるが返事をしてくれない。



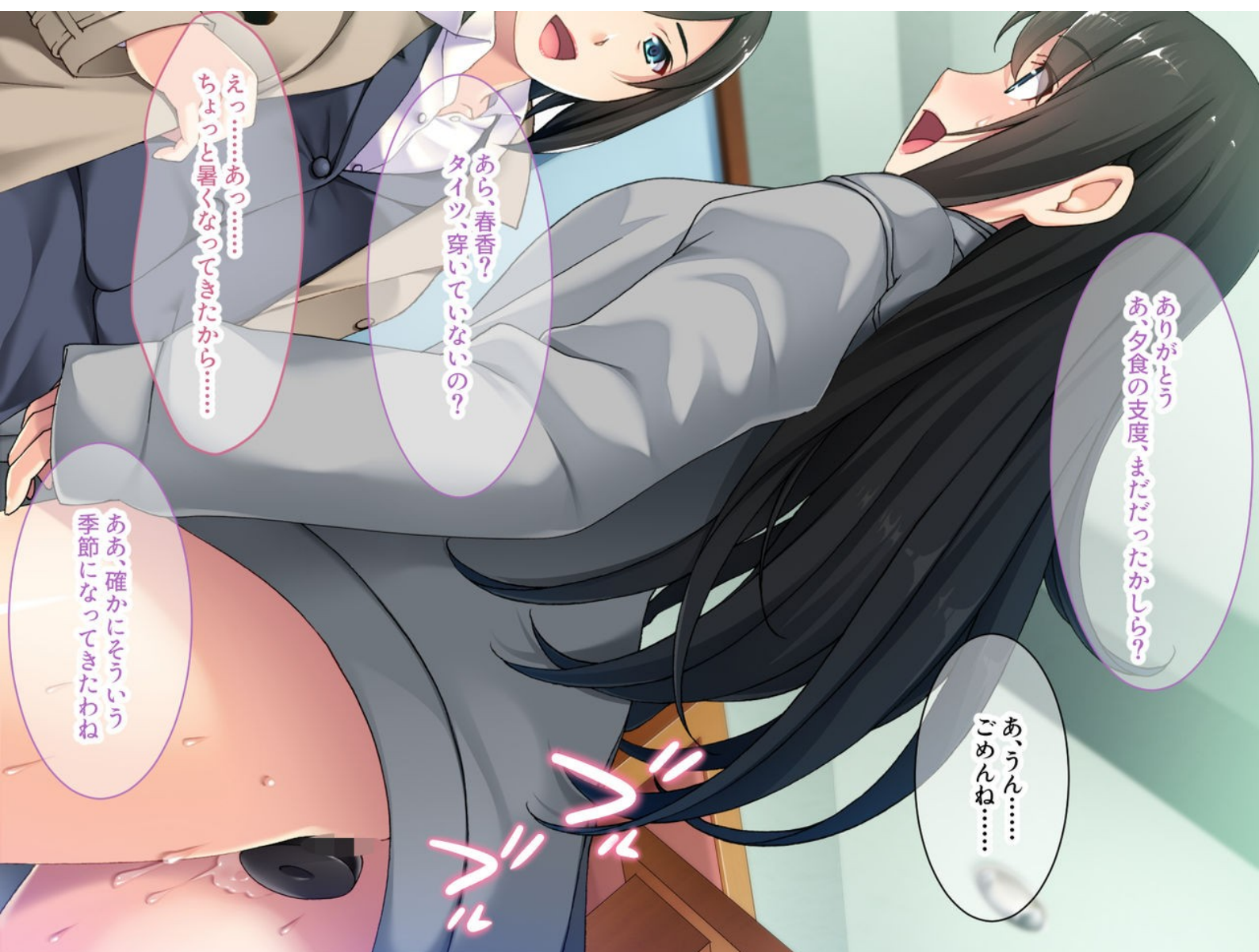


「ああっ、みんながわたしを見てる、
わたしの身体を見て……
んっ、んう~~~~っ」

俺は水着姿の冴依をリードで引きながら、
健全なSM散歩デートを楽しんでいた。

ああ……





ありがとう
あ、夕食の支度、まだだったかしら？

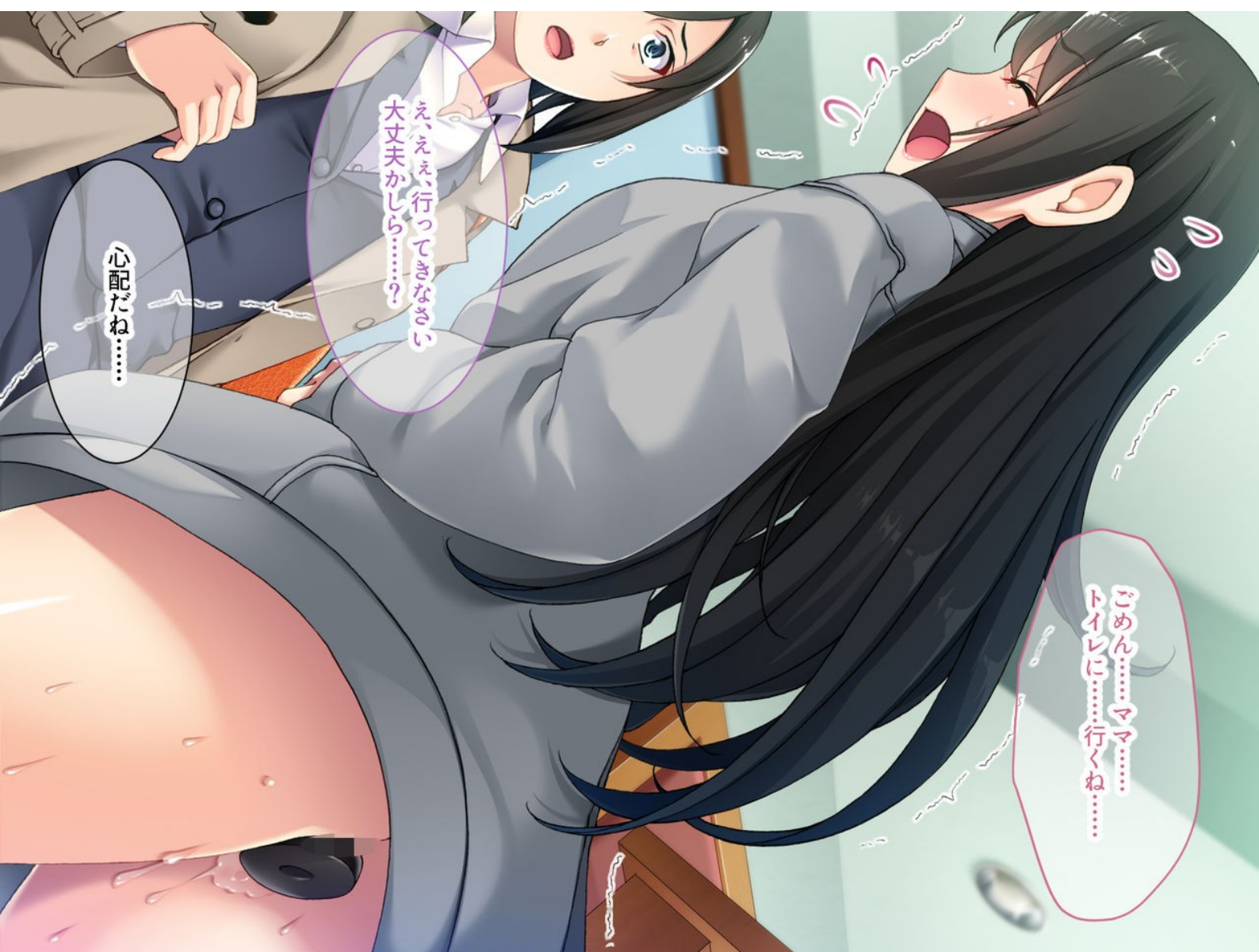
あ、うん……
ごめんね……

あら、春香？
タイツ、穿いていないの？

えっ……あっ……
ちよっと暑くなってきたから……

ああ、確かにそういう
季節になってきたわね

ぐんぐん



ごめん……ママ……
トイレに……行くね……

え、ええ、行つてきなさい
大丈夫かしら……？

心配だね……